

五十鈴の風

平成21年7月発行
発行：市立伊勢総合病院

安心していただける医療を

- 新任医師の紹介・・・よろしくお祈りします
- 栄養管理課だより・・・調理師おすすめメニュー「シャーベット」
- 院内トピックス・・・当院も映画の舞台となりました
- 健康メモ・・・ヘリコバクター・ピロリに対する2次除菌について
- 院内各科紹介・・・産婦人科
- 院内部署シリーズ・・・看護部 緩和ケアチーム



「初夏のおはらいまち」 横上 裕氏（伊勢地区医師会カメラクラブ）撮影

事務局だより

皆様から「五十鈴の風」の表紙を飾る写真を募集しています。広報図書委員会事務局（総務課 藤田）までお願いします。

市立伊勢総合病院
の 基本 理念

患者様の立場より
病院機能の立場より
地域医療の立場より

愛情と責任を持ち、安全で安心していただける医療
良質かつ高度の医療
円滑かつ密な機能分担、合理的かつ効率的な医療

新任医師の紹介

よろしく
お願いします



市川 尚己 (脳神経外科)

出身地：愛知県 出身大学：三重大学 前任地：三重大学附属病院

特技/趣味：野球

マイブーム：新居の整理

一言：脳外科医として、まだ駆け出しですが、丹羽先生、種村先生の御指導の元、大きく成長したいと思います。早く、この病院の戦力となれるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。



栄養管理課だより 調理師おすすめメニュー

当院では、食欲のない入院患者さんに、手作りシャーベットをお出しています。入院患者さん用のものには、全体の栄養バランスを考慮し、必要な甘味料や吸収のよい脂肪を加えています。

今回紹介するものは、昨年、透析料理教室で紹介したもので、一般家庭にある材料を用いて簡単に作ることができます。みかん缶のほか、もも缶やパイン缶でも応用できます。

この季節にぴったりの、いろいろな手作りシャーベットをお楽しみください。



シャーベット

材料(4人分) 1人前 43kcal

- みかん缶 (汁を含まず) (150g)
- 砂糖 ……大さじ2と小さじ1 (20g)
- 水 ……カップ3/4 (150ml)

作り方

- ① 砂糖と水を鍋に入れて煮溶かし、あら熱をとっておく。
- ② みかん缶は、汁を切っておく。
- ③ ①と②をフードプロセッサーにかける。
- ④ ③をバットに流し、冷凍庫で凍らせる。
- ⑤ 凍ったままの④をフードプロセッサーにかけ、もう1度冷凍庫で凍らせる。
- ⑥ 食べる直前にもう1度フードプロセッサーにかけ、盛り付ける。

※フードプロセッサーがない場合は、ミキサーでも代用できます。

♪ドラマの撮影協力はいくつかありましたが、
映画については、初舞台となります(^_^)♪

伊勢市出身の小説家、橋本 紡はしもとつぐさんの恋愛小説「半分の月がのぼる空」が映画化されることとなり、作者の思い出に残されている伊勢での撮影に当院も協力をしました。

主人公 戎崎裕一えぞきゆういちに池松壮亮いけまつすけさん、ヒロイン 秋庭里香あきばりかにくつなしおりくつなしおりさん、秋庭里香の主治医 夏目吾郎なつみごろうに大泉洋おおいずみひろさんと豪華キャストにて、来年の春を劇場公開予定としています。

今回、五十鈴の風では、普段みることの出来ない撮影現場の写真を掲載しています。ぜひ劇場へ足を運んで頂き、甘く切ない2人の恋を視聴し、青春時代や初恋を思い出されてはいかがでしょうか？



STORY

半分の月がのぼる空

高校2年生の戎崎裕一は突然肝炎を患い、入院することとなりました。裕一は退屈のあまり病院を抜けだしては、親友の世古口司の家に遊びに行き、看護師の谷崎亜希子に説教される日々を送る中で、同じ病院に入院していた秋庭里香と出会います。二人は徐々に親しくなり、ある日里香は裕一に、自分が心臓の病気を患っており、もうすぐ死ぬ運命にあることを告白します。裕一は戸惑うと同時に、自分が里香を意識し始めていることに気づきます。裕一の気持ちは、里香に届くのでしょうか。病院や高校、伊勢の町を舞台に、自分や里香、夏目といった彼を取り巻く人々との関わりを含め、物語は進んでいきます。

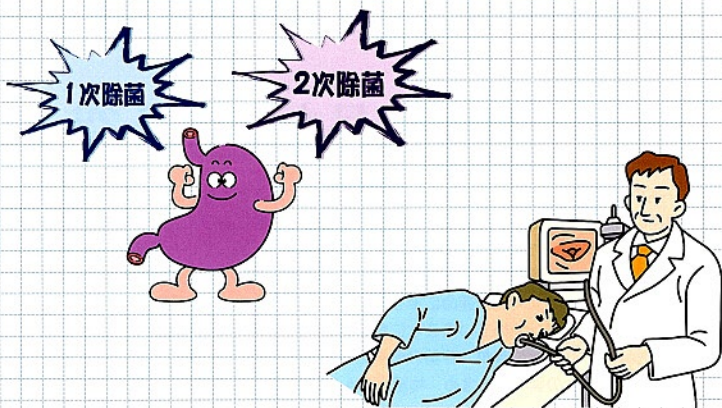
ヘリコバクター・ピロリ に対する 2次除菌 について

胃潰瘍や十二指腸潰瘍が再発する原因の一つに、ヘリコバクター・ピロリ（以下ピロリ菌）という胃内に存在する細菌が関係することが明らかになっています。2種類の抗薬と胃酸の分泌を抑える薬を服用することにより、この細菌を取り除く治療を「ヘリコバクター・ピロリ除菌療法」といい、ピロリ菌の除菌に成功すると、胃潰瘍や十二指腸潰瘍が再発しにくくなることがわかっています。

ピロリ菌の1次除菌療法は2000年11月に初めて保険適用となり広く普及してきました。しかしながら、1次除菌療法を行った患者さんの10～20%程度に除菌不成功な方が存在し、これらの方々は非常に再除菌が困難であることが問題となっておりました。

この問題を解決するため、2007年8月より1次除菌不成功な方に限ってですが、「2次除菌療法」を行うことが厚生労働省より認可されました。「2次除菌療法」は1次除菌療法で使用した2種類の抗生剤のうち、1種類を他の抗生剤に変更して治療を行います。1次除菌が不成功に終わった除菌困難な方を対象に2次除菌療法は行われますが、その除菌率は80%を超えており非常に有効な治療となっております。1次除菌が不成功であった方は是非医療機関にて2次除菌療法について相談をしてください。

(内科 副院長 小坂 良)





当科は現在、二人の臨床経験の長い産婦人科専門医が良性、悪性などあらゆる婦人科疾患を対象に、患者様にとって必要な治療を患者様と相談しながら行っており、女性の一生の健康管理のお手伝いをさせていただいております。

そして難しい症状のお悩みには、総合病院の利点を活かし、他科の医師や医療スタッフと相談しながらの対応を心がけています。

総合病院にありがちな冷たい雰囲気や緊張感を排除し、気軽に相談できるようなアットホームな雰囲気づくりをスタッフ一丸でしており、産婦人科の待合室は廊下からは見えないゆったりとした環境で、スタッフは常に患者様の立場にたってお声を気軽にかけられるように心がけています。

また、思春期専門外来*や、女性外来*など当院ならではの充実した思春期や女性のための外来もおこなっておりますので、是非お気軽に御相談ください。〈予約制〉

*なお、平成17年7月1日から小児科常勤医が不在となり、安全に分娩を取り扱うことが困難となったため分娩の取り扱いを休止させていただいております。

妊娠については、初期の妊娠および里帰り分娩の妊婦検診および妊娠関連疾患（切迫産産や子宮外妊娠、胎状奇胎など）のみを診察しております。

（産婦人科科長 村松はるみ）

*これらの特殊外来については、当院ホームページをご覧ください。 <http://www.hospital.ise.mie.jp/>

院内部署シリーズ

看護部 緩和ケアチーム



緩和ケアとは、がんなど生命を脅かす疾患に伴う痛みをはじめ、体や気持ちのつらさ、療養場所や医療費のことなど、患者さんやご家族が直面するさまざまな問題に対し、援助する医療のことを指します。

緩和ケアは、医師だけでなく、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカー、臨床心理士などの専門職、家族やボランティアなどを含めたチーム医療で行います。それぞれの職種が専門的な立場に立って援助を行うことで、患者さんや家族が抱える様々な苦痛や課題に対する援助を行っていきます。

当院では、主治医や担当看護師のケアを受けていただくほかに、「緩和ケアチーム」があります。体や心の苦しみによって日常生活が困難になっていることを病棟スタッフがチームの医療者と連携し、「その人らしい生き方」を支援することを目指しています。がん療養に関してどのような時も、患者さんやご家族の相談にのることができますので、どうか独りで悩まず気軽に担当医へご相談ください。

（3西病棟 緩和ケア認定看護師 奥野友子）